

スキルラボの利用状況からみた現状と課題

○稲垣純子¹⁾、太田智子¹⁾、三橋美和²⁾、山本容子²⁾、佐伯良子²⁾、倉ヶ市絵美佳³⁾

1) 京都府立医科大学附属病院 2) 同医学部看護学科

3) 同看護実践キャリア開発センター

【目的】看護師及び看護学生の看護実践力の育成と向上を図るため、知識と技術を統合する体験型の学習やより臨床に近い状況でのシミュレーション演習を行う場として活用できるスキルラボを整備した。本研究の目的は、その利用状況を分析し、今後の課題を明らかにすることである。

【研究方法】スキルラボは平成 19 年医学科教育のため、A 大学附属病院（病床数 818 床）1 階に設置された。平成 21 年度はスキルラボ内の整備と各シミュレーターへの購入、利用規約の整備等を行った。利用時間は平日の 9～21 時、附属病院と大学共有の場として看護実践キャリア開発センターが日常管理の委託を受け、平日 10～13 時はセンタースタッフが常駐し利用者への対応を行っている。平成 22 年 6 月から平成 23 年 2 月の利用について、職種別、目的別に分析を行った。

【結果】職種別利用状況は、利用者数 1,921 人中看護系（看護師、看護学生）が 1,457 人で 76%を占めた。利用数の多い 6,7, 9～11 月は客観的臨床能力試験及び新人看護師に対するシミュレーション教育等の研修会を実施した時期に一致している。目的別では、自己学習が 95 件(47%)と最も多く、次いで研修会 49 件、見学 46 件であった。自己学習も 6,7,9,10 月が多く、研修会の時期に一致していた。

【考察】研修会を行う場として、またそれに伴う自己学習の場として活用できている一方、そのようなイベントがない月の利用は少ないことから、日常的な利用には至っていないと考えられる。今後さらに有効に利用するためには、利用時間、利用手続き等の環境及びインストラクターとしての常駐スタッフの配置、シミュレーター活用のためのオペレーター育成の継続、備品の充実が課題であると考えられる。（本報告は、文部科学省平成 21 年度助成事業「看護職キャリアシステム構築プラン」の一部である。）

職種別利用者数及び目的別利用件数

		6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	合計
職 種	看護	267	175	20	186	283	354	63	25	84	1457
	看護以外	84	39	20	22	42	88	22	5	142	464
	合計	351	214	40	208	325	442	85	30	226	1921
目 的	講義	1	1	0	0	0	4	0	0	0	6
	自己学習	17	17	6	29	14	4	0	1	7	95
	研修会	6	4	0	3	7	14	4	1	10	49
	オリ	1	0	0	0	0	0	0	0	9	1
	見学	19	3	1	21	2	0	0	0	9	46
	その他	2	1	2	1	0	0	0	0	9	6
	合計	46	26	9	54	23	22	4	2	17	203